

くずし字初級講座



松平文庫「聞繕目録」(A0143-01134) 宝暦12年(1762)

日時: 令和5年10月21日(土) 文書館研修室 担当: 堀井

右の如く湯候にあらざる

再網可紙

○○ ○同断)

○○ 聞繕

宝暦十と末二月
吉の如く百俵の如く行交

同断
前と同じ
であるこ
と。
『日本国語大
辞典』

町方二而 吉

衛門 ○) (和暦年月

町方二而 吉○○○衛門○) ()
不埒 ○○^○○○○之趣○○○二付

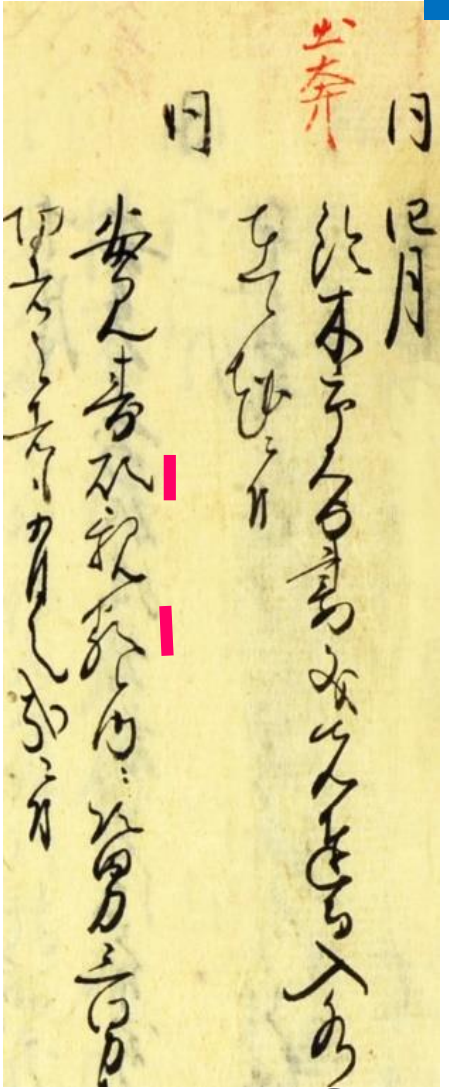
遺恨 同
出奔 同
遺恨 同
同 四月



○ 権大夫 ○之 ○○ 奔二付

● 遺恨 遺恨 遺恨

○○○江 ○○○を 含○○○○



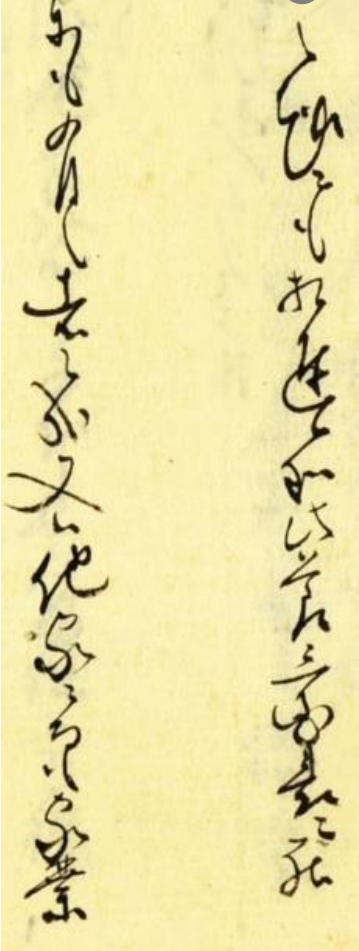
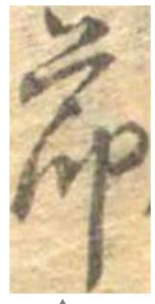
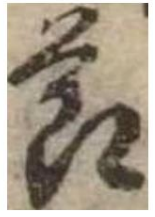
同 四月

〇〇 () 〇〇先 ()

在〇〇二付

同

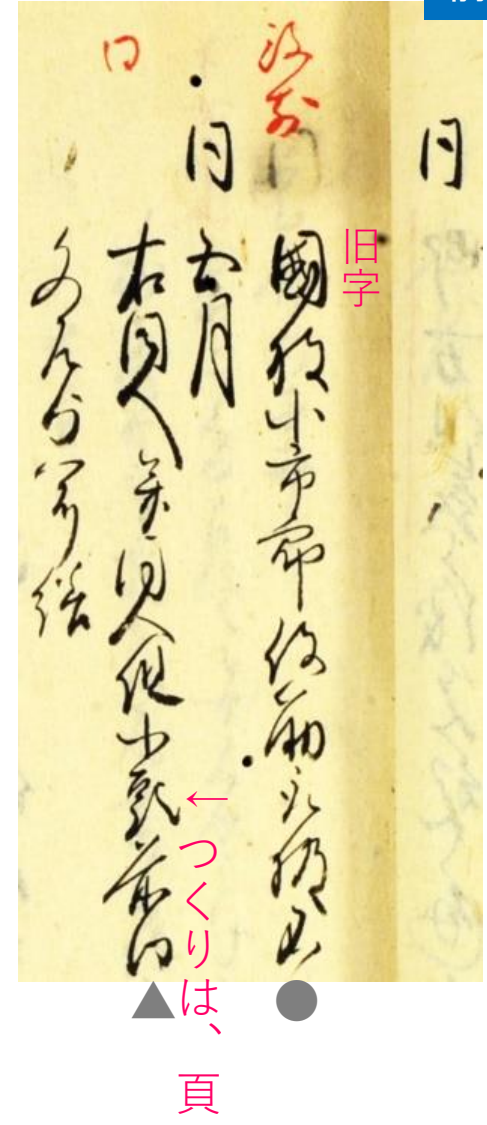
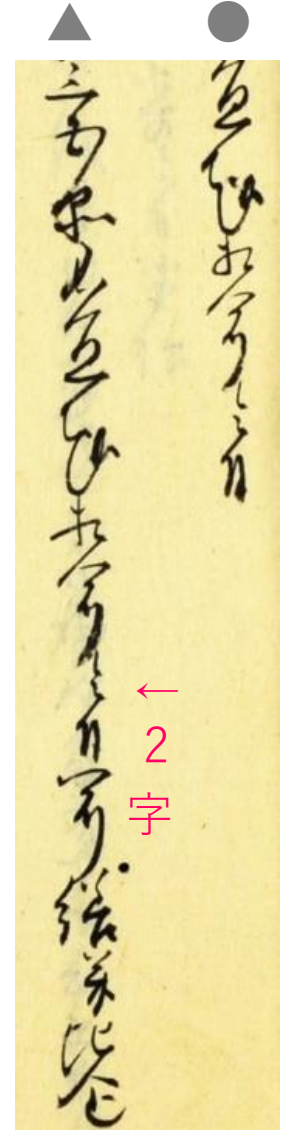
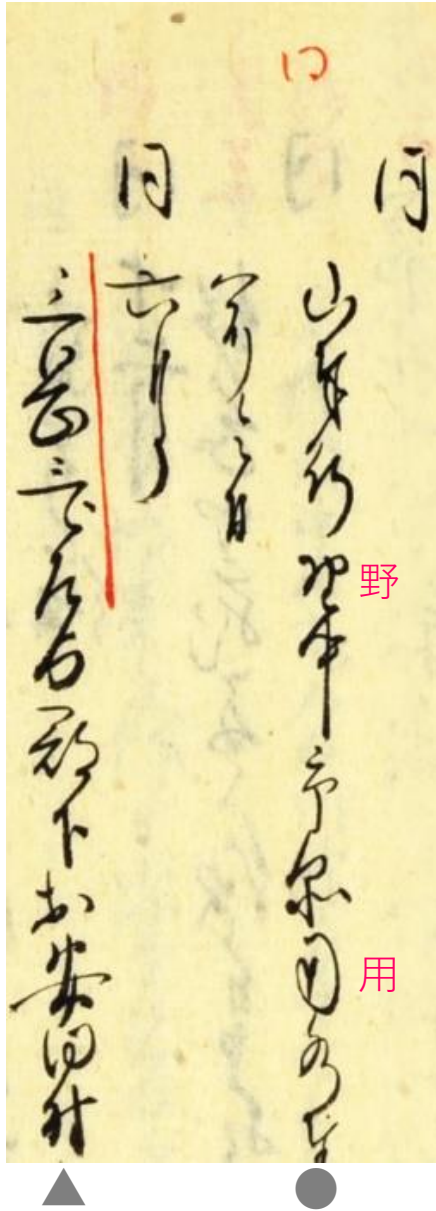
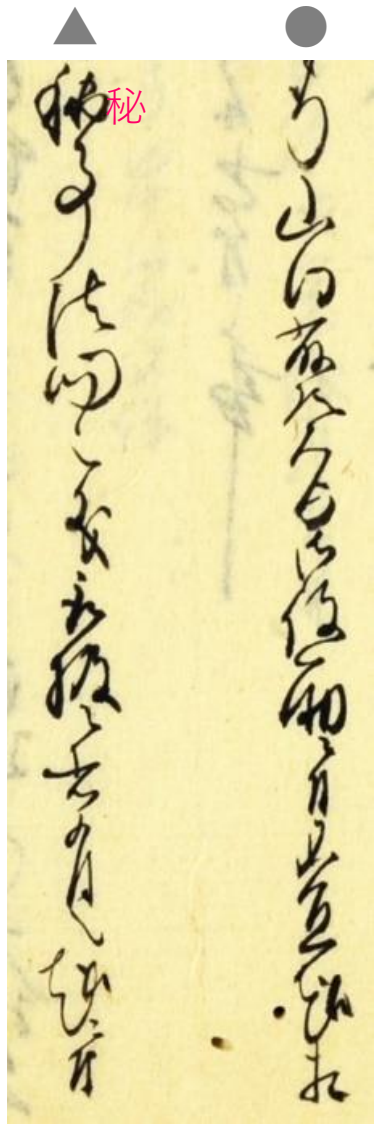
() (親類之内二) ()
(功〇之者も) (二付)



〇〇二も () 此節 〇〇表二〇

等も〇〇〇〇〇哉 又ハ〇〇二而も〇〇

秘事法門 浄土真宗で宗祖の教えとは異なった教義・信仰のひとつ。教義を秘密裏に伝えるためこういわれる。



跡 跡 跡

武 武

志 志

お 相 お

月 日 日 月

文 書 書

よみづからくずし字

望所方候方布衣石尾
 多りに候方所跡
 有し跡

跡

日 七日
 許印丸平石尾座
 石尾平平平平平平平
 所方候方所方所方所
 所方候方所方所方所

座

覆

→ 対義語

宝曆十三年九月
十月
十一月
十二月

宝曆十三年九月

○○○方 ○○○所不_レり之趣二付聞繕
不_レり

宝曆十三年九月
門がまえ

◎◎…建築・修理などの工事。御とあるので
二二二では「福井藩の」作事。

A0200-00102-002 福井県文書館

池田半方所用掛
榎井あ七
森 比呂清
川村文左衛門
池村甚蔵
小出利池
山久兼徳
小出利池

同十月

吉江◎◎◎鳥見五十嵐浅右衛門

〓〓〓不宜趣相聞候二付

日十月

鳥見五十嵐浅右衛門

吉江◎◎◎・吉江澍↓糺村の深田や琵琶山に接近しているため吉江藩主松平昌親は吉江より杉本村・糺村にかけての湿原地帯に鷹場を設けその周囲三里余の山地を坂鳥打の獵場と定めた。
(『日本歴史地名大系』)

鳥見・江戸時代鷹場の管理・獲物の鳥類の状況を視察・報告するを任務とした役人。(『国史大辞典』)

鳥見五十嵐浅右衛門
原田吉江の鳥見の事
み七月

同十一月

細井道栄○大酒を好く

放埒○○○有之候○近○身持○○○

候○聞繕

日十一月

細井道栄大酒を好く

放埒取らん有く近○身持

候○聞繕

細井道栄…25石5人扶持。当時は奥医。翌宝暦14年4月に奥医御免、表御医師。（『福井藩

土履歴』）

Handwritten notes in cursive script, including names like 山田信方 and 原田重房, and dates like 元禄七年.

元禄七年

十月九日
十月十日
十月十一日
十月十二日
十月十三日
十月十四日
十月十五日
十月十六日
十月十七日
十月十八日
十月十九日
十月二十日
十月二十一日
十月二十二日
十月二十三日
十月二十四日
十月二十五日
十月二十六日
十月二十七日
十月二十八日
十月二十九日
十月三十日

同十二月

○○○○○○○○之儀二付申相候書付之事

日十二月
松平昌勝

◎◎藩…正保2年(1645)〜享保6年(1721)。
藩主は松平昌勝、昌平の2代。福井藩主松平忠昌の遺領のうち5万石をもって立藩。
昌勝の子綱昌・昌尚(吉邦)、昌平(宗昌)は福井藩主に。

山田...
原田...
み七月

百十三東九月

(1756)

宝曆六子正月

下女不届岡三◎右衛門召仕之○○○

○○之趣相聞候二付聞繕

下女不届 岡三 ◎ 右衛門 召仕 之 ○ ○ ○

岡三◎右衛門・150石+役料100石。当時は御目付。この後、4月に「不調法之趣在之御役御取上、末ノ番外、遠慮」(『福井藩士履歴』)

Handwritten notes in cursive script, including the name '岡三' and other details.

み七月

百十三東九月

同○○○○高桑教庵妻

右に少る儀を乞ふ十月後方より古書に記あり

十月

細井左衛門尉（藤七）之儀二付○○藤七与申者

十月

(処)

松平左衛門尉（藤七）致候處藤七義甚不宜者

御中一平兵衛左衛門尉（藤七）御返り申上

之〇二付

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上 御返り申上

御返り申上

宝暦元未四月五月分

役前

◎◎役中山△右衛門□□方中村

〓〓〓右衛門義不宜儀相聞候二付

宝暦元未四月五月分
中山△右衛門□□方中村

中山△右衛門…20石3人扶持。当時は御代官。
先代は享保2年(1717)に「勤方不宜二
付」御代官役御取上。(『福井藩士履歴』)
□□…堤防などの水害防止施設。また、その施設
を造ること。(『日本国語大辞典』)

中山△右衛門□□方中村
先代は享保2年(1717)に「勤方不宜二
付」御代官役御取上。(『福井藩士履歴』)
□□…堤防などの水害防止施設。また、その施設
を造ること。(『日本国語大辞典』)

百十三 東九月

十月

右に少将の儀を乞ふ事

十月

同五月

十一月

松平の儀を乞ふ事

〇〇御家中〇〇之儀二付

小倉〇右衛門与力田中〇〇聞繕

日

時

山田中村妻の儀

山田中村

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

山田中村妻の儀

十月末九月

同八月

山田弥三

岡田文大夫

小川

同

◎◎◎◎◎右衛門△△△△△并□□

七

伊藤吉之進

□右衛門下代○○○右衛門博奕之間繕

日八月

山田弥三右衛門

伊藤吉之進

◎◎◎◎◎右衛門..18石5人扶持。 当時は御土蔵番。(『福井藩士履歴』)

△△△△△..岡田戸右衛門か。

□□□右衛門..30石5人扶持。 当時は御代官・御留守居番。これから6年後の宝暦7年に役儀御免・大番入。(『福井藩士履歴』)

山田弥三右衛門

伊藤吉之進

原田吉之助

同四戌八月

(野)

追放者立歸鱒江◎◎衛門元組桑野○○衛門

○○者二候処立入候由

外○○者も有之由二付

日辰八月

追放者立

鱒江首人の元組桑野

元組桑野

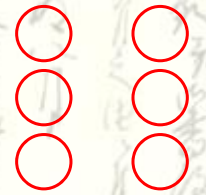
追放者立 鱒江首人の元組桑野 元組桑野

鱒江◎◎衛門：200石+役料100石。当時は

御目付。(『福井藩士履歴』)

福井藩士履歴の本文部分。手書きの文字が縦書きで記述されている。一部は赤い矢印で指されている。

大七月



川崎金大夫小林

久左衛門波々伯部一右衛門山形

三五右衛門〇〇〇〇之儀二付〇〇〇〇

儀も有之由二付

Handwritten red text in a box: 久左衛門波々伯部一右衛門山形

Handwritten text in a box: 久左衛門波々伯部一右衛門山形

Handwritten text on the left margin: 久左衛門波々伯部一右衛門山形

Handwritten text on the right margin: 久左衛門波々伯部一右衛門山形

川崎金大夫・23石3人扶持。当時は番改。これ
から4か月後の11月に御供御免。(『福井藩
士履歴』)

波々伯部一右衛門・24石4人扶持。当時は番
改。これから4か月後の11月に御役御免。

(『福井藩士履歴』)

山形三五右衛門・28石3人扶持。当時は番改

(『福井藩士履歴』)

Handwritten text on the far left margin: 七月...

古紙天守書殿川邊之文安不存は信州下之山氣多石奈言紙殿

宝暦九年八月 (1759) 宝暦九年八月

宝暦九年八月

宝暦九年八月 宝暦九年八月

〇〇〇〇前田金一〇〇八蔵与申者

〇〇〇之儀有之由二付

宝暦九年八月 宝暦九年八月

卯元申二月

三月 三月

六月 六月

七月 七月

今有 今有

七月 七月

七月 七月

同十一月六月

〇〇〇〇并於〇〇〇〇

虚妄

人柄私欲〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇聞繕

〇十一月
沙劫定ル家おはは方人柄私欲虚妄のれ

虚妄.. ①真実でないこと。うそ。いつわり。虚偽。そらごと。きよもう。きよぼう。②他の金品をごまかして自分の物とすること。横領すること。 (『日本国語大辞典』)

六月
世と初終を方沙有方方に作す
佐名本平三郎其能下あは村のり許料中寄村と趣のり
るく後よりと義におかすか合古

七月
海の中を古町へとなく波舟拂く
今有沙又初有許料中一美事とこ少祝とた
七月

Handwritten Japanese text in cursive style, including the date "同十二年十一月" (November of the 12th year).

○○○○○○○○○○之儀二付聞繕

同十二年十一月
御留守居番
Handwritten Japanese text in cursive style, including the date "同十二年十一月".

◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎◎
・御留守居番。これから14年後の安永5年
(1776) 8月に「養子久五郎御追放之節」
役儀御免・大番入・遠慮。それからさらに14
年後の寛政2年(1790) 2月に代がわり。
(『福井藩士履歴』)

Handwritten Japanese text in cursive style, including the date "七月".

明和

(1764)

明和元申二月

養子願◎田◎◎儀○○○○をく

く養子願二付○○書付

明和

・明和元申二月

米子親

松の之水係也控へてと米子親より書付

和

力控へてと米子親より書付

◎田◎◎◎…200人扶持。高知席。これから13年後の安永7年(1777)6月に「養父主水跡目無相違」代がわり。(『福井藩士履歴』)

佐々木平三郎と米子親より書付

七月
海内書く古町へてと米子親より書付

今度沙汰初より計り申し美事とて少祝と書付
七月了

高丸天守書取川傍之長又安不長は信州下之長
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

同三月
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

八田金右衛門〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

不埒之〇〇〇有之二付

日三月
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

八田金右衛門・100石。当時は郡奉行（役料50石）。これから4年後の明和5年に遠慮、それからさらに2年後の同7年に役儀御免・遠慮。『福井藩士履歴』

六月
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

七月
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

今有
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二
一六二

五月廿一日
 六月廿一日
 七月廿一日
 八月廿一日
 九月廿一日
 十月廿一日
 十一月廿一日
 十二月廿一日

同 六月

世上〇〇ケ〇趣ニ付メり方被
 二 仰付候事 一

日 六月
 世と御終手方御付方御付候事

日 未



- 闕字 (欠字)
- ※平出: 直前で改行
- ※擡頭: 平出+ほかの行よりも高い位置から書き出し

六月廿一日
 七月廿一日
 八月廿一日
 九月廿一日
 十月廿一日
 十一月廿一日
 十二月廿一日

同

越山出入佐久士市兵衛〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

(野)

山之内〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇江越山有之〇

〇之儀二付出入二〇〇〇承合書付

越山史 月 佐久士市兵衛 下 奉行 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

佐久士市兵衛…150石+役料100石。 当時は 郡奉行(役料50石)。この2か月後に御長柄 奉行(役料100石)。 『福井藩士履歴』

七月 今度 七月 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

同七月

◎り御◎◎り御◎之者町人共をく

〓〓〓〓打擲候趣二付

日七月
法外
宿内書く古町人

所へて宿内書く古町人

◎り御◎…あちこちの大家を渡り歩く駕籠者？

※渡り奉公…あちこちを渡り歩き、主人を替えて奉公すること。

※渡り中間…定まった主人を持たないで、渡り奉公をする中間。

佐々木市三郎五郎下宿宿村中宿村趣のり

七月
宿内書く古町人

今宿内書く古町人
七月

同

御〇〇二付御〇〇并

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

日 日

今夜 七月

初月 今夜 七月

今度御入部…当時の藩主は松平重富。この年の5月に初入国（4月25日江戸発、5月9日福井着）。

佐々木平三郎が死す。新田村の村長が新田村の村長に就任する。

七月 江戸から京都へ向かう。江戸から京都へ向かう。

今夜 七月 江戸から京都へ向かう。江戸から京都へ向かう。

家来無挑灯

明和元申七月
稻生八郎右衛門儀江戸長詰致候處不宜趣二付

(処)

天方八郎家来無挑灯二而通行致候処

松本町立番之者相咎儀

二付聞繕

同

御絵師原松哲義不宜趣相聞候二付

同

笹治多門与力本庄八右衛門義 御城内取扱之儀二付

同八月

役前

今立六右衛門下代齋藤太右衛門

役筋之儀二付年来評判不宜二付

同

今般 御入部二付大赦被 仰付候処

佐久士市兵衛支配下之者赦

願之義二付承合候書付

同

御家中弓鉄砲 御覽被 仰出候処

師匠中御取扱之儀二付世評

書之事

A0143-01134

福井県文書館

明和元申七月

大方向... 御取扱之儀

日

日

日

後方

日

日

Handwritten notes in cursive script, including dates and names like '御取扱之儀'.

古事

同 日 武藝 御覽之節与力共麻上下之下着用仕候様被
 仰付候事
 同 日 井上半大夫病氣之次第承合書付之事
 同 日 十月 山方渡り御先筒組中西清兵衛
 同 日 十月 山田猪八与申者共勤方不宜趣
 同 日 十二月 山方渡り御先筒組中西清兵衛
 同 日 十二月 山田猪八与申者共勤方不宜趣

同 (芸)

同武藝 御覽之節与力共麻上下之下着用仕候様被
仰付候事

同

三尾野村清水村出入二付
江戸表へ御呼出申来候処疑敷儀も有
之二付承合書付

同

御作事方不_レり

井上半大夫病氣之次第承合書付之事

同 十月

御作事所_レり方不宜二付吟味書付
同 閏十二月

渡り組不宜

山方渡り御先筒組中西清兵衛

山田猪八与申者共勤方不宜趣

同

二付聞繕

同 日 武藝 御覽之節与力共麻上下之下着用仕候様被
 仰付候事
 同 日 井上半大夫病氣之次第承合書付之事
 同 日 十月 山方渡り御先筒組中西清兵衛
 同 日 十月 山田猪八与申者共勤方不宜趣
 同 日 十二月 山方渡り御先筒組中西清兵衛
 同 日 十二月 山田猪八与申者共勤方不宜趣

「みんなで翻刻」 少人数読解グループ

日時 毎月**第2木曜日** 10:00～

場所 文書館研修室



古文書読解講座

日時 毎月**第4金曜日** 13:30～

場所 文書館研修室



資料整理 ボランティア

日時 毎月**第2第3水曜日** 10:00～

場所 文書館調査研究室

